

グリーン復興プロジェクト みやぎ



はじめに

東日本大震災では、地震及びその後の大津波により、宮城県の沿岸部を中心に、多くの尊い命や財産が失われるとともに、自然環境も大きな被害を受けました。2年が経過し、ガレキの撤去や復旧事業は進みましたが、地域の本格的な復興は、今なおその途上にあります。

宮城県では、環境省が進める「三陸復興国立公園の創設を核としたグリーン復興のビジョン」の具体的な取組である7つのプロジェクトを活用し、国内外、特に外国から被災地への来訪者を増加させ、復興の加速化を図っていきたく考えています。

そのため、関係市町からの意見聴取や有識者会議での議論を踏まえて、宮城県の沿岸地域におけるプロジェクトの展開の方向性を検討、取りまとめ、「グリーン復興プロジェクトみやぎ」として国や関係市町に提案することとしました。本パンフレットでは、「グリーン復興プロジェクトみやぎ」の展開イメージを皆様にお伝えするとともに、宮城県沿岸地域の魅力や復興への取組状況などをご紹介します。被災地の今を知り、復興への道程を見守るべく、是非、宮城にお越しください。

グリーン復興プロジェクトみやぎ

自然公園の再編成と新たな仕組みづくり

複雑に入り組んだ海岸地形とその沖合に浮かぶ大小の島々によって構成される景観が、陸中海岸国立公園の南部に連続する宮城県沿岸地域の4つの自然公園に共通の特徴です。この地域の小さな入り江や湾奥には、小高い山を背負って集落が形成され、前面に広がる豊かな海の恵みを得た人々の暮らしが、自然公園と一体となって維持されてきました。今回の東日本大震災はこの地域にも甚大な影響をもたらしましたが、地域の人々は高台に新たな生活の場を求めつつ、海と共に生きる暮らしを続けていこうとしています。



三陸復興国立公園が目指す、「森・里・川・海が育む自然とともに歩む復興」は、この地域においてこそ実現していきたいテーマであるといえます。そのためには、4つの自然公園を三陸復興国立公園に編入するとともに、後背部の山から海岸、海域までの小流域のまとまりを一体的に管理できるような公園区域の指定を検討すべきです。

また、高齢化と後継者不足に悩む地域においては、国立公園としての利用の促進が、国内外の人々との交流・連携を生み、ひいては地域の雇用や産業につながるような仕組みを築いていく必要があります。

フィールドミュージアム整備とエコツーリズムの推進

宮城県の沿岸地域では、海に突き出た半島と海を抱き込む湾、海上の島々、湾奥から流れ出る川、これらが一体になって森里川海の連関が形成されています。これらの要素がコンパクトにまとまっているエリアについては、自然公園区域の内外を問わず、エコツーリズムや環境教育のフィールドとして積極的に活用できるよう、フィールドミュージアムとしての位置づけを検討すべきです。

唐桑半島・気仙沼大島地区、戸倉半島・翁倉山・北上川河口地区、牡鹿半島・金華山・網地島・田代島地区、浦戸諸島・宮戸島地区の4つの地区はその候補といえるでしょう。これらの地区では漁業体験、森の管理体験、川や海でのカヌー体験、渡り鳥やサケの遡上観察、スノーケリング等の様々な体験が可能です。



みちのく潮風トレイルの段階的整備と活用

宮城県牡鹿半島以南の沿岸地域には、金華山への参拝道であった金華山道や古代の官道（幹道）であった東山道、芭蕉がたどった奥の細道などの歴史の道があります。これらの道の多くは今回だけでなく過去の大津波にも襲われず、沿道には数多くの歴史的資源も残されています。比較的内地側に位置し、安全で被害も少ないこれらの歴史の道を長距離トレイルとして新たに再生・活用し、利用促進のイベント開催等を通じて、近隣市町の連携や話題づくりを行っていくことが有効です。また、将来的には海岸部に整備される新たな拠点や観光スポットを巡る周遊ルート、島々を巡る海のルートを確認するなど、沿岸地域の復興事業の進捗に合わせて段階的に整備していくことが望まれます。

また、北部地域では、比較的安全な海岸部の既存の道を幹線道と位置づけ、海岸の眺望を楽しむ山のルート、里の生活や文化に触れる里のルートなどの支線を設け、季節に応じた利用やリピーターにも対応できるルート設定が必要です。

拠点施設の整備とネットワーク化

宮城県の沿岸地域に国内外から多くの方々にお越しいただくには、適切な情報発信と受け入れ体制の確保が必要です。三陸復興国立公園の南の玄関口に位置する松島地区には、総合インフォメーションセンターを設置し、三陸復興国立公園のみならず、フィールドミュージアムや東北海岸トレイルの利用、一般観光に関する全ての情報を利用者に分かりやすく提供できるようにすべきです。また、宮城県内の交通の起点となる仙台駅、仙台空港、道の駅等の既存の案内施設との連携も大変重要であり、外国人の方々への対応もできるよう、多言語での情報提供システムの確保も必要です。

また、フィールドミュージアムにおいてエコツーリズムや環境教育の活動拠点となる施設や、東北海岸トレイルの利用者への情報提供・休憩場所となるトレイルセンターなどの拠点施設を、それぞれ適切な位置に整備し、これらの各拠点施設及びインフォメーションセンターが相互に連携し、適切な利用者サービスが提供できるネットワークの構築も重要です。

「三陸復興国立公園の創設を核としたグリーン復興のビジョン」とは

環境省では、東日本大震災からの復興に資するため、平成24年5月に「三陸復興国立公園の創設を核としたグリーン復興のビジョン」を策定しました。

ビジョンでは、森・里・川・海のつながりにより育まれてきた自然環境と地域のくらしを後世に伝え、自然の恵みと脅威を学びつつ、それらを活用しながら復興することを提唱しています。また、具体的な取組として三陸復興国立公園の創設を始めた7つのプロジェクト（右図）を掲げ、様々な取組を通じて、復興に貢献することを目指しています。

▼詳しくは以下のホームページをご覧ください。

<http://www.env.go.jp/jishin/park-sanriku/>



宮城のみどころ紹介

海と山に囲まれた宮城の自然と、豊かな自然に根ざした食や文化など様々な魅力をご紹介します。宮城県では、こうした資源を活用しながら、グリーン復興プロジェクトを推進していきます。

【宮城のみどころ】

【宮城の食】

つながり

つな

ひと

公園

トレイル

エコ

自然

みちのく潮風トレイル想定ルート

気仙沼
フカヒレ
サンマ
折石などで知られる唐桑半島や大島など、複雑な海岸美が見所。復興商店街や市場見学も魅力。

南三陸
ホヤ
ウニ丼
神割崎をはじめとする景勝地が続く。漁業体験や語り部ガイドなどの体験型活動も盛ん。

石巻・女川
ホタテ
金華サバ
典型的なリアス式の海岸美を誇る牡鹿半島、古くから庶民の信仰を集める金華山、緩やかに流れる北上川など、変化に富んだ景観が魅力。

松島・奥松島
カキ
松島湾に浮かぶ島々が織りなす絶景は日本三景のひとつ。五大堂などの歴史やカキなどのグルメも楽しめる。

塩竈・多賀城
寿司(マグロ)
酒
塩竈神社や多賀城跡など歴史香るエリア。活気あふれる魚市場や、新鮮な魚介類でつくられる寿司も。

仙台湾沿岸
牛タン
イチゴ
ほっきめし
河口部は干潟が発達し、水鳥が飛来する。仙台藩にゆかりの歴史資源も豊富。農地や漁港の復旧にともない各地で市場も営業を開始。

塩竈市魚市場

塩竈神社

多賀城跡

塩竈

仙台

閑上

亘理

山元

気仙沼大島

巨釜・半造(折石)

里山の景観

徳仙丈山

神割崎

志津川湾

漁業体験

松島の島々(大高森から)

松島五大堂

かき小屋

万石浦

月の浦

北上川の草原

飛来するシギ

鳥の海ふれあい市場

竹駒神社

リンゴ

みやぎ復興応援観光モデルコース



宮城県沿岸部を訪れ、地域の旬な味覚を食べ、地域で買い物し、地域の方と触れ合うことが復興につながります。さまざまな地域で震災の語り部によるガイドなども行われていますので、ぜひ、宮城県にお越しください。

モデルコース① 「南三陸海岸・牡鹿半島」

1泊2日
仙台又は一関
▼車

- 潮吹岩（岩井崎）
- 龍の形の被災松

【お問合せ】気仙沼観光コンベンション協会
TEL 0226-22-4560
<http://www.k-macs.ne.jp/~k-kanko/index.html>

▼車又はBRT

- 語り部による学びのプログラム
- 海藻おしぼ講座 [泊]

【お問合せ】南三陸町観光協会
TEL 0226-47-2550
<http://www.m-kankou.jp/>

▼車

- マリンパル女川
- 笹かま手焼き体験

【お問合せ】女川町観光協会
TEL 0225-54-4328
<http://www.onagawa.org>

▼車
仙台

モデルコース② 「松島湾」

1泊2日
仙台
▼車又は電車

- 塩竈観光（鹽竈神社、仲卸市場）
- 寿司 など

【お問合せ】塩竈市観光物産協会
TEL 022-364-1165
<http://kankoubussan.shiogama.miyagi.jp/>

▼車又は電車又は遊覧船

- 松島観光
- 五大堂、瑞巖寺 [泊]

【お問合せ】松島観光協会
TEL 022-354-2618
<http://www.matsushima-kanko.com/>

▼車又は代行バスと車

- 奥松島の漁業体験

【お問合せ】東松島市観光物産協会
TEL 0225-87-2322
<http://www.okumatsushima-kanko.jp/>

▼車と電車
仙台

モデルコース③ 「仙台湾南部沿岸」

日帰り
仙台
▼車と電車

- 閑上さいかい市場
- 震災語り部タクシー

【お問合せ】宮城県タクシー協会 仙台地区総支部
TEL 022-256-0356
<http://sentakyo.org/>

▼車と電車

- 竹駒神社 ●金蛇水神社

【お問合せ】岩沼市市民経済部商工観光課
TEL 0223-22-1111
<http://www.city.iwanuma.miyagi.jp/>

▼車又は電車

- いちご狩り
- はらこめし、ほっきめし

【お問合せ】亶理町観光協会
TEL 0223-34-0513
<http://www.datenawatari.jp/index.php>

▼車又は電車
仙台

復興商店街、元気に営業中!

宮城県沿岸地域の被災地でも、地場産業や観光産業の復興が始まっています。仮設の復興商店街や飲食店街が各地で営業を始め、地元住民や復興に携わる人々、ボランティア、観光客で活気づいています。



復興屋台村気仙沼横丁



南三陸町伊里前福幸商店街



震災後2週間で再開したゆりあげ港朝市

被災地の今とこれから



自然の変化と再生

宮城県の沿岸地域の自然環境は、今回の震災による津波や地盤沈下の影響を受けて、甚大な攪乱が生じ、現在も変化を続けている状況にあります。特に、干潟や砂浜、砂州、河口部のヨシ原、浅海域のアマモ場などが、津波による砂泥の流出や地盤沈下の影響を強く受け、その面積が大きく減少し、そこに棲む生物もまた砂泥とともに流出してしまいました。

しかし、僅かに残された干潟や砂浜が、底生生物や海浜性の生物等の避難場所となり、今後、干潟・砂浜が再び形成され生物の供給源となることが期待されています。

また、宮城県の沿岸地域に集団で飛来するガン・カモ類やシギ・チドリ類等の渡り鳥は、数は若干減少したものの震災後も飛来していますし、多くの河川でサケの遡上も見られます。

この地域は地震の多発地帯であることから、これまでも幾度となく津波や地盤沈下による攪乱が繰り返されてきました。そのため、この地域の自然環境は、こうした大きな攪乱を受けながら成立したものであり、これからも力強く再生していくものと期待しています。ただし、こうした自然の再生には長い時間を要することから、今後も長期間にわたるモニタリングの継続が必要です。



災害前の姿に戻りつつある蒲生干潟
(上2011年3月14日撮影、下2012年4月10日撮影)



震災後の北上川河口に飛来するコクガン
(撮影：佐々木茂美氏)

復興に向けた地域の取り組み



被災直後は中止せざるをえなかった各地の伝統的なお祭りも、地域の人たちの手で少しずつ復活してきています。また、津波によって失われた海岸林や鎮守の森を再生させるべく、外部の方々の支援もいただきながら苗木を育てて植林するなど、息の長い地道な活動が始まっています。さらに、今回の被災の教訓を国内外に向けて広く伝えるための防災イベントなども行われています。



気仙沼みなと祭り



石巻大漁まつり



七ヶ浜ハマギクの植栽ボランティア

コラム
被災を免れた神社や歴史街道

今回の被災地域において、海岸線近傍にまつられた神社は、わずかな例外を除いて津波被害を免れ、被災直後には社や境内が一時的な避難所としても利用されました。各地域では何世代にもわたって人々が住みついてきましたが、時には大きな津波を受けています。過去の人々が、子孫が被害に合わないよう、そこに逃げれば安全だという場所に神社をまつたのではないかと考えられています。

また、仙台平野の各所には、古代の官道（幹道）や歌枕に読まれた史跡などの歴史的遺産が随所にあります。今回の津波もそこまでは達していません。仙台平野は400〜500年おきに大津波に見舞われており、歴史の街道は過去の浸水域を避けて整備された可能性が高いと考えられます。

こうした過去の教訓を未来に伝えていくことが求められています。



おわりに

2011年3月11日の東日本大震災の発生以来、宮城県内の災害ボランティアセンターを通じ活動されたボランティアの数は、2012年12月31日現在で、延べ56万人を超えています。県内の被災地域では、ガレキの撤去や家屋に流れ込んだ泥の掻き出し、救援物資の配付や海岸漂着物の片づけ、さらには被災住民の心のケアに至るまで、様々な局面で国内外の方々から多大なご支援、ご助力をいただきました。

世界各国・地域からも、数え切れないほどの励ましのメッセージ、義援金や寄付、支援物資の提供をいただくとともに、直接、被災地へ専門の支援チームを派遣して下さった国々も数多くありました。2011年9月30日現在で、外務省が発表した資料だけでも、16の国と地域の支援チームが宮城県内の被災地を訪れています。震災翌日から大規模な救助隊を派遣いただいた韓国のチームには仙台市などで熱心に救助・搜索活動を行っていただきました。台湾やモンゴルのチームには名取市、岩沼市で活動いただきました。ロシアのレスキューチームは石巻市で、オーストラリア、南アメリカ、トルコなどのチームは南三陸町、石巻市、多賀城市などそれぞれの地域で活動いただきました。イスラエルの医療支援チームは南三陸町でクリニックを開設し、持ち込んだ医療器材は南三陸町の医療復興のために寄贈していただきました。

大変多くの方々には様々なご支援をいただき、本当にありがとうございました。まだまだ、復興には長い時間がかかると思いますが、どうぞ末永く見守ってください。そして、復興に向けて取り組む被災地域を再訪したいと思っております。



台湾からの義援金を使用して修理された福浦橋（松島）



南三陸町福興市でのオーストラリア大使館からの出店



イスラエル医療支援チームによる診療の様子

アクセス ■仙台までの所要時間

区間	所要時間
JR	
東京ー仙台（東北新幹線）	約1時間36分
飛行機	
札幌（新千歳）ー仙台	約1時間5分
名古屋（中部）ー仙台	約1時間10分
小松ー仙台	約1時間
大阪（伊丹）ー仙台	約1時間15分
広島ー仙台	約1時間25分
福岡ー仙台	約1時間45分



宮城県環境生活部自然保護課

〒980-8570 宮城県仙台市青葉区本町 3 丁目 8 番 1 号 Tel : 022-211-2672

<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/sizenhogo/>

写真提供：佐々木茂美、外務省、宮城県